

BUSINESS

リーダーになる!

実践する上司学。
嶋津良智による、よきリーダー、上司になるための必読コラム。



嶋津良智■リーダーズアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新会社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。

第70回 ときには強い負荷を

部下に負荷の強い仕事を任せる際には、「なんとかできる!」とポジティブに取り組むことを伝えましょう。大きな成長につながります。

悩み・苦しみ・考える能力を鍛える過程

「このくらいの仕事なら、彼女に任せても大丈夫だろう!」「こんな仕事を彼に任せたら、彼はつぶれちゃうだろうか!」。上司にとって、どの部下にどの程度の仕事を与えるかは、大きな悩みどころです。仕事を与える基本は、それぞれの部下にとって「頑張れば、なんとかクリアできそうなレベル」で与えることです。

しかし、ときには強い負荷を与えることによって、部下が大きな達成感を感じ、飛躍的に成長してくれることがあります。これはちようど、筋肉を鍛えるときと同じではないでしょうか。わたしは週に2、3度トレーニングジムへ通っていますが、低めの負荷でトレーニングをしていると引き締まった体にはなっても、筋肉の厚みは増さないという話を聞きました。筋



肉の厚みを増やすためには、バーベルなどを持ち上げる回数は少なくても、強い負荷をかける必要があるのです。筋肉トレーニングでも、仕事でも、負荷をかけ過ぎると壊れてしまいます。そのさじ加減が本当に難しい

のですが、部下を成長させたいと思ったら、ある程度強い負荷をかけることも必要です。その強い負荷により、人はその負荷を軽減するために、悩み・苦しみ、考えることによって、能力という筋肉を鍛えていくのです。

強い負荷×挑戦する姿勢 大きな成長と達成感

強い負荷のかかる仕事に直面したとき、大切なのはポジティブに捉えるということです。「よし、きつとできるだろう。なんとか乗り越えてみせる」という思いで取り組むのと、「いやあ、ダメだ。無理に決まってい

る!」と思っているのでは、発揮される力は、確実に違ってくる。当然、結果も変わってきます。部下に仕事を与える際、その部下の能力、資質、キャラクターなどを見極める必要があることはいうまでもありませんが、ぜひ強い負荷をかけてみてはいかがでしょうか。その仕事を成し遂げたとき、その部下は大きく成長しているに違いありません。強い負荷をかけて、ポジティブにチャレンジさせる。部下にそうする限りは、上司であるあなた自身が実践することも大事です。「上司のルール」より転載